

- 1 主題名 多文化共生と人間尊重を考える【内容項目 4－(2) 公正・公平・正義】
【内容項目 4－(8) 国際理解・親善と人類愛】

資料名 『レヌカの学び』

2 主題について

2020年に東京オリンピックを控え、政治、経済、全ての社会的事象において東京オリンピックに間に合うように国際化を進めている昨今、日本人の英語力の低さや国際社会での積極性、自信のなさが大きな課題とされている。どのようにすれば、先進国として恥ずかしくない国際人に育てていけるのか、さまざまな分野でも議論がされている。

政治的、経済的に先進国として世界と名を連ねている日本がなぜ、その分野において極端に弱いのだろうか。それは、日常生活で他文化に触れることが少ないことに起因しているのではないかと考える。日本は海に囲まれた島国であり、他国のように国境を有していたり、多民族で構成されていたりする国家ではない。それ故に、他民族や他文化に対して免疫がなく、自分たちの文化や習慣、考え方が一般的であるという感覚をもっている傾向が強いように思う。しかしそれは他を知らないからであり、何かしら気付くきっかけさえあれば、他のものを受け入れていくだけの土壌は整っていると考える。

そこで、本時では「レヌカの学び」という資料を使用し、ネパール人のレヌカ自身の境遇や価値観を知ることで、他文化を理解するきっかけとしたい。この活動を通し、自分自身が知らないうちに決めつけていた「思い込み」や「偏見」に気付くと共に、人の習慣や価値観は、環境や状況、そのほか様々な理由によって築かれているということに気付いて欲しい。そして何より大切なのは、今回の教材がレヌカの見方から語られたものである、ということである。【内容項目 4－(2)】

日本社会全体が国際化を目指すあまりに、外国語や外国文化を学ぶことの一辺倒になりがちである。しかし、外国文化と言ってもその国の中にもさまざまな文化や習慣、考え方等があり、それは環境や状況によってそれぞれ違うのである。私が考える国際理解とは、異文化理解であり、身近な人を理解しようとするところこそが、国際理解の第一歩であると考えます。【内容項目 4－(8)】「レヌカの学び」は、レヌカ自身の「個」の学びであり、同じように日本人同士でもそれぞれの文化や価値観があるということに気付いて欲しいと思い、本主題を設定した。

3 児童の実態（省略）

4 研究主題との関連

研究主題
心の国際化から、ともに生きる社会へ
～国際性豊かな児童生徒の育成を目指して～

〈視点①〉異文化を理解し、多文化共生に対する広い視野を習得するための手立ての工夫に取り組む。

「心の国際化」とは、国に関わらず相手を理解しようとし、偏見や思い込みを持たずに互いを尊重する思いをもつことだと考える。人は知らず知らずのうちに、自分の価値観や思い込みで相手を決めつけてしまいがちである。特に子供のうちは、少しの情報で固定したイメージを持ちやすいと言える。子供たちの会話を聞いていると、「〇〇国は〇〇だから、信用できない。」「〇〇国の人は、みんな〇〇だよ。」と、ニュースや家族の会話から得た情報をそのままイメージとしてもっていることが多い。そこで、本資料「レヌカの学び」を用い、「ネパールに居る時のレヌカ」「日本に居る時のレヌカ」のカードを自分の思いとグループの人の思いを比べながら話し合っ分ける作業を行う。正解を確認するときには、思っていたことと違う解答を知ることになるだろう。その時に、自分のもっていた偏見や思い込みに気付くと共に、人はさまざまな環境、状況の中で生活していること、それは国だけの問題ではなく隣の友達にも同じことが言えることに気付いて欲しいと考える。

4 指導計画

(1) ねらい

多文化共生に対する意識、「個人」と「文化」を大切にし、尊重する気持ちをもつことができる。

(2) 指導の流れ

時	学習内容と活動	指導や支援の手立て
1 (本時)	○「レヌカの学び」 ・自分の中にある「思い込み」に気付くことができる。	○カード分けの正解を発表すると同時にレヌカ自身の解説を丁寧に伝えることで、レヌカが置かれた生活環境や文化に対する理解を深めることができるようにする。
2	○「わたしの文化紹介」 ・同じ日本人でも、家庭によって文化が違うことに気付き、お互いの文化を尊重する思いをもつことができる。	○自分の嗜好やそれぞれの家庭のルールや食文化などを紹介し合う活動を通し、同じ日本人同士でも家庭によって文化が違うということを知ること、大切なのは国籍や人種ではなく、その人自身であることに気付かせる。

5 本時の展開 (1/2)

(1) ねらい

自分自身の「思い込み」について気が付き、人を理解する心情を育てる。【4－(2)】

ネパールの文化について理解を深める。【4－(8)】

(2) 指導の流れ

	学習活動と発問	ねらいにせまる手立て	予想される児童の反応
導入	<p>1 【資料1】「レヌカの自己紹介」を読み、レヌカについて知る。</p> <p>①レヌカさんは、ネパールという国の人です。ネパールという国について、どんなことを知っていますか。</p>	<p>◇ネパールという国について発問をしながら簡単に説明をし、内容に取り組みやすいようにする。</p> <p>◇地図を提示し、ネパールの位置を確認する。</p> <p>◇レヌカについて説明し、これから取り組む内容について関心を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インドに近いと思う。 ・あまりイメージがない。 ・名前は聞いたことあるけど、どんな国かわからない。 ・暑い国だと思う。
展開前半	<p>2 グループの友達と「ネパールに居る時のレヌカ」と「日本に居る時のレヌカ」に分類し、話し合う。</p> <p>②カードの分類について、説明を聞きましょう。</p> <p>③グループごとに話し合い、カードを完成させましょう。</p>	<p>◇各グループ、18枚のカードを、「ネパールに居る時のレヌカ」「日本にいる時のレヌカ」の2種類に分類することを説明する。</p> <p>◇字を読んで考え、裏に絵があるため、裏返しにはしないことを確認する。</p> <p>◇グループごとに、話し合っ取り進むよう促す。</p> <p>◇色で対になっているカードから分類していくと取り掛かりやすい旨を、助言する。</p> <p>◇特定の児童で進めているグループには、個々の意見を尊重しながら進めていくよう助言する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手を洗う習慣って、ネパールにあるのかな。 ・食べる前に手を洗うのは、日本だと思う。 ・学校にお菓子を持っていくのは、絶対に日本じゃないよね。 ・朝ご飯を食べない時もある、というのは、ネパールじゃないかな。
	<p>3 正解かどうか、カードを裏返し、それぞれの国の絵になっているパズルを完成させる。</p> <p>④グループで完成させたカードを</p>	<p>◇裏返して繋げて完成した絵を見せ、イメージしやすいようにする。</p> <p>◇何が違ったのか確認するた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思っていたのと違った！ ・ネパールって朝ご飯必ず食べるの！？ 意外！ ・合ってた！ 学校にお菓子な

<p>展 開 後 半</p>	<p>それぞれの絵になっているか見てみましょう。</p> <p>4 予想と違ったカードや疑問に思ったカードについて共有する。 ⑤グループで完成させたカードで合っていたところと予想と違っていたところについて友達と話し合みましょう。</p> <p>5 カードの内容についての説明を知ったり、自分の生活との相違点を見つけたりする。 ・それぞれのカードをめくり、理由をグループで読み合う。 ⑥日本やネパールでのレヌカの生活について説明書きを見てみましょう。</p> <p>6 本時の振り返りを、ワークシートに記入し、発表する。 ⑦今日の学習で思ったことや考えたことを書きましょう。</p>	<p>め、自分たちのグループで分類したカードの形を崩さないように伝える。 ◇完成した絵を見て、それぞれの国の絵（風景）を見ながら日本とネパールの違いについて話をする時間を確保する。</p> <p>◇クラス全体で共有できるよう、挙手をさせたり指名して発表させたりする。 ◇レヌカ自身の変容を後で比較できるよう、「将来の夢」「朝ご飯」「手を洗う」の3つは必ず取り上げるようにする。</p> <p>◇より真剣に向き合えるよう、理由についての解説はレヌカ自身の言葉であることを伝える。</p> <p>◇説明書きを読んで、新たな発見をしたり自分自身と比べたりさせる。</p> <p>◇気が付いたことを中心に書くよう、助言する。 ◇「将来の夢」「朝ご飯」「手を洗う」ことについて、なぜそのようになったのか取り上げ、レヌカ自身の変容を確認する。</p>	<p>んて日本じゃあり得ない。 ・どうしてこれがネパール（日本）なの？</p> <p>・〇〇というカードが違いました。 ・〇〇がどういうことなのか知りたい。 ・朝ご飯を必ず食べるって、本当ですか。 ・手を必ず洗うのは、日本も同じじゃないですか。 ・軽い風邪でも仕事を休んでしまうのはなぜですか。</p> <p>・自分の知らないネパールについて知れてよかった。 ・意外なことがいくつかあることに驚いた。 ・絶対にネパールだ、日本だ、と思っていたけれど、理由を知って納得した。</p>
----------------------------	--	---	--